令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　青葉　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

１．調査の目的

⑴ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２．調査内容

⑴ 教科に関する調査（国語，算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵ 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

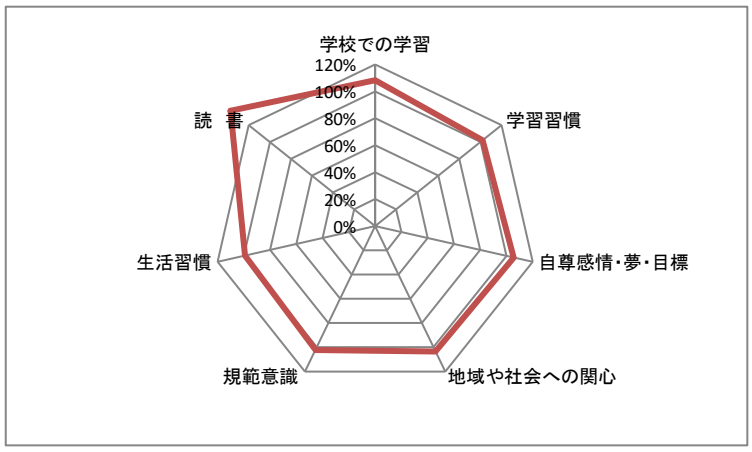
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考力、判断力、表現力等を問う内容（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）においては全ての区分で上回っている。しかし、知識及び技能を問う内容（言葉の特徴や使い方に関する事項）においては下回っている。	全国平均正答率との比較：同程度である
	よくできた問題	目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。（思考・判断・表現・選択式）	
	努力が必要な問題	目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける。（思考・判断・表現・記述式）	

算数	全体的な傾向や特徴など	数と計算、図形、測定、データの活用においては上回っている。しかし、変化と関係においては下回っている。	全国平均正答率との比較：上回っている
	よくできた問題	三角形の面積の求め方について（知識・技能・短答式）	
	努力が必要な問題	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する（思考・判断・表現・短答式）	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「自分には、よいところがあると思いますか」、「将来の夢や目標を持っていますか。」に関して上回っているので、今後も、道徳や教育活動全体を通して考えさせていきたい。
・「学校の授業時間以外に、平日、１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。」に関しては1時間以上の割合がやや下回っている。また、30分より少ないの割合が大きく下回っているので、家庭学習の大切さや方法等を説明していく必要がある。
・「今住んでいる地域の行事に参加していますか」に関しては当てはまるの割合が大きく下回っているので、地域の行事等のPRを行っていく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・「学びの質を高める授業」づくりの5つのポイントをもとに、「学び合う学習」「言語活動・表現活動の充実」に力を入れた授業づくりに努める。
・朝自習の確実な実施による補充学習の徹底を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・夏休み前に「家庭学習の手引き」を配布 し、家庭学習の習慣を身に付ける取組を行う。
・家庭学習の習慣を徹底するために課題として自主学習の推進を実施する。